

「毛利家の国宝・至宝展」に寄せて

ひろしま美術館で開催される特別展「毛利家の国宝・至宝展」（4月25日～5月31日）にあわせて、国宝・重要文化財を含む名品の数々を、歴史と美術という二つの視点から紹介します。

日 時 平成27年5月2日（土）10:00～12:10

会 場 サテライトキャンパスひろしま
（広島市中区大手町1丁目5-3 県民文化センター）

5月2日 （土）	10:00～11:00	毛利元就・隆元と大内文化	県立広島大学人間文化学部教授 秋山 伸隆
	11:10～12:10	山水画の世界 —雪舟から狩野派まで—	ひろしま美術館 学芸員 森 静花

募集人数 80名程度

受講料 無料

対 象 どなたでも

申込方法 往復はがきの往信面の裏に①郵便番号、②住所、③お名前（ふりがな）、④電話番号を、返信面の表に受講される方の郵便番号、住所、お名前（「〇〇〇〇」様）をご記入の上、平成27年4月16日（木）（消印有効）までに次のところにお送りください。

〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71
県立広島大学地域連携センター「美術館講座」係
電話（082）251-9534

受講案内は締切日以降にお届けします。なお、申込多数の場合は抽選となる場合があります。
※申し込みにあたってお寄せいただいた個人情報は県立広島大学公開講座以外の目的には使用しません。

主 催 県立広島大学地域連携センター・公益財団法人ひろしま美術館

講座内容 秋山伸隆 「毛利元就・隆元と大内文化」

毛利元就・隆元父子は、山口の大内文化に対して、どのような意識を持っていたのでしょうか。父子の自筆書状から読み解いてみましょう。また、大内家伝来と思われる名品が、どのようにして毛利家に継承されたかについても考えます。

森 静花 「山水画の世界—雪舟から狩野派まで—」

もともと中国で発達した絵画のジャンルである山水画は、室町時代に入り、禅宗の発達と共に日本でも定着して行きました。雪舟「四季山水図」をメインに、雪舟以前、以後それぞれの時代における絵師を取り巻く状況と、その美術史的な意味について考えます。